

印象に残っています。やはり刀剣は現在、非常に需要のあるコンテンツなのだということを再確認しました。

学芸員になってみて、予想外だった仕事(こういうことも学芸員がやるんだということ)や一番大変だと思った仕事内容を教えていただきたいです。

当館は講座やイベントが多いため、会場設営などの力仕事（といっても椅子や机を運ぶくらいですが）が時々あります。私は背が低く腕力もないので、男性職員に頼ってしまっています。実際に学芸員として働く中で驚いた博物館の裏側…といったことはありますか。

裏側ではないかもしれませんが驚いたのは、寄贈のご相談が想像していたよりも頻繁にあることです。他館の状況を知らないで比べられませんが、当館が地域に根差した博物館であることが、たくさんのご寄贈をいただける理由の一つではないかと思っています。

学芸員をしていてやりがいを感じることはあるとすればどのようなことですか。

展示や解説で喜んでいただけた時はもちろん、館の教育普及事業で子どもたちが真剣に取り組んでくれている様子が見られ

ると達成感があります。

松島さんが学芸員として働く際に、大事にしている心構えや、重要であると考えている学芸員としての資質について教えてください。

当館の性質上、私は主に徳島藩の歴史や文化の魅力を発信し、地域に還元することを考えています。その中で歴史や美術そのものも面白いと思っていただけたら幸いです。また資質を一つ挙げるならば、人との繋がりを大切にできることが重要であると思います。これはどの職業でも同じだと思いますが、学芸員は非常に様々な職種・立場の人と関わります。

学生のみなさんへ

私は未だ企画展を担当した経験もなく、上手くお答え出来ていない質問もあると思いますが、少しでもお役に立てれば幸いです。現在入職から4カ月が経とうとしていますが、毎日多くのことを学び、資料に触れ、忙しくも楽しい毎日を送っています。学芸員を目指すことに不安を感じている方もいらっしゃると思いますが、やってみたい気持ちがあるなら一旦飛び込んでみていいと思います。皆様が自分に合った職に就けるよう祈っています。

2023年度は新型コロナの影響をほぼ払拭した博物館実習を行いました（合計3単位、実習生数23名）。学内での資料の取り扱いや学外館の見学実習（岡山県立博物館、岡山県立美術館、岡山市立オリент美術館、一般財団法人林原美術館、倉敷市立自然史博物館）、5日間以上の学外館での館園実習では、多くの機関や本学の先生方にお世話になりました。

年度後半期には、2019年度ぶりとなる対面での展示実践を、本学附属図書館にて行いました。これは、テーマから展示資料の収集・選択まで実習生が協働で行うものです。中央図書館2階ムラタアカデミアに設置された2つの平置き展示ケースをお借りしました。実習生は「おもいで」という課題を設定した後、グループワークにより2つの企画を軸に展示を練りました。結果、「あのころにわたしのそばにあったもの」という統一テーマのもと、企画1では学生にとってなつかしい文房具にかかわる展示、企画2では「おとしもの」という切り口からの展示となりました。付箋による参加型コーナーやアンケート用紙の工夫なども含

め、図書館を利用する方に振り向いていただける展示となるよう試行錯誤しました。アンケート結果も好評で、事後指導では実習生から反応を得ることのありがたさに関する感想もありました。

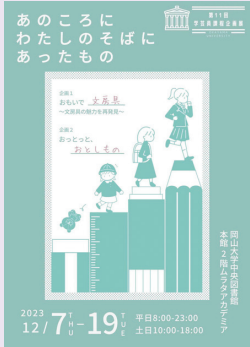
実習に携わっていただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

館園実習一覧 カッコ内は、実習生数

岡山県立博物館(5)、岡山県立美術館(1)、岡山シティミュージアム(10)、一般財団法人林原美術館(1)、公益財団法人吉備路文学館(2)、公益財団法人倉敷考古館(3)、徳島県立博物館(1)

展示実践

展示期間 2023年12月7日(木)～12月19日(火)
展示会場 岡山大学附属図書館中央図書館本館2階ムラタアカデミア
展示会名 第11回岡山大学文学部学芸員課程企画展「あのころにわたしのそばにあったもの」企画1「おもいで文房具～文房具の魅力を再発見～」企画2「おととと、おとしもの」



展示ポスター



完成した展示



展示設営作業

19 March. 2024 学芸員課程 Newsletter

Newsletter from Course
for Prospective Museum
Workers, Faculty of Letters,
Okayama University

編集・発行: 岡山大学文学部学芸員課程 (編集 光本 順)
発行日: 2024年3月25日
文学部学芸員課程 Web Site
<https://www.okayama-u.ac.jp/user/pmw>

contents

特集 先輩に聞こう！
徳島市立徳島城博物館
松島 沙樹 さん ……1～4
人文系博物館実習 ……4

本号では、「博物館概論」受講生が卒業生の博物館専門職員に質問する企画として、徳島市立徳島城博物館に勤務する松島沙樹さんに、2023年7月にご対応いただきました。松島さんは日本美術史をご専門とし、本学文学部で学芸員資格を取得され、2023年4月より同館で勤務されることとなった新入学芸員です。同時に、インタビュー時点で松島さんは本学大学院社会文化科学研究科博士前期課程2年次生でもあり、勤務の傍ら修士論文作成にも取り組まれてきました。就職後間もないタイミングで仕事に研究にとお忙しい中、丁寧な回答をいただき、心より感謝申し上げます。

ご回答の通り、学芸員になる特徴的動機として、好きな物や学問に関する仕事に携わりたいという点があります。博物館活動の根幹には博物館資料があります。そのため資料とその学問に惹きつけられ、実際に専門職員となるというあり方が通例です。これは2013年度以降、新学芸員課程を担当する中でも実感してきました。物と学問への関心を起点として、その先に「職」が出てきます（このあたりの感覚が大学生には伝わりにくい気もしますが）。学芸員課程ではこれからも、多様で魅力的な博物館活動に関する専門的学びをサポートしたいと思います。（文学部 光本 順）

本インタビューは、2023年7月に行ったものです。

1.学芸員になったきっかけ

学芸員の仕事を選んだ理由は何ですか。

就職しても日本美術に関わり続けたい、大学で終わるのはもったいないと思ったからです。単純に自分の好きな物たちと向き合うのが楽しかったので、そ

の世界に没頭できる職業として学芸員を選びました。学芸員の募集情報を主にどこから得ましたか。

学芸員の求人情報を掲載している掲示板や、その情報をまとめているTwitterアカウントで情報収集をしていました。



松島さんのお仕事風景

特集

先輩に聞こう！

徳島市立徳島城博物館
美術工芸担当学芸員
松島 沙樹 さん

先輩に聞こう！

徳島市立徳島城博物館
美術工芸担当学芸員
松島 沙樹 さん

松島 沙樹 さん プロフィール

出身：岡山県津山市
 学歴：平成30年4月 岡山大学入学、令和4年3月卒業
 令和 4年4月 岡山大学大学院入学、令和6年3月修了
 職歴：令和 5年4月 徳島市立徳島城博物館学芸員

研究テーマ：卒業論文「唐代金銀器における花鹿の成立について」
 修士論文「江戸狩野派の描く円相内福祿寿図」
 専門：博物館での専門は金工、主に刀剣

学芸員を募集している博物館は多くはないと思うのですが、どういう経緯で徳島市立徳島城博物館に務められたんでしょうか。

初めは徳島城博物館の募集を掲示板で見つけ、館について調べました。地元と近く、また携わってみたかった子ども向け教育普及事業が充実していたこともあり、試験を受けました。正直な所、まだ修士1年だったので受かるとは思っておらず、内定通知が来たときは驚きましたが、指導教員の後押しもあり、就職を決めました。

私は現在学芸員課程の講義を受講していますが、なかなか学芸員として働く姿をイメージできずにいます。松島さんがいつ頃に学芸員として働こうと決められたのでしょうか。

私は配属当日まで実感がありませんでした。実際にやってみないと分からない部分もあるので、イメージが出来なくても問題ないと思います。学生時代に少しでも雰囲気を知るのなら、博物館ボランティアやイベントスタッフに応募してみてもいいかなと思います。私が学芸員を目指すことを決めたのは大学3年のときです。学芸員課程の授業を履修し始めたのもこの頃で、実習には修士1年のときに行きました。ですので、今学芸員課程を履修されている皆様と比べると動き出しは遅かったのではと思います。

学芸員課程で学ぶ中で大変だった授業や課題はなんですか。またそれらにどのように対応して学芸員資格を得ることができましたか。

大学図書館2階を使った企画展の構想とチラシ作成が難しかったと記憶しています。私はデザイン等の経験がなく、特にチラシ作成に悩みましたが、インターネットで実際の展覧会チラシを探して自分なりに作りました。チラシやパンフレット作成は実際の業務でも行うため、良い経験になりました。

学芸員として働く中で、学部生の時に勉強したことと特に役立ったこと、「これをもっと勉強しておけば良かった」と思うことがあれば教えてください。

学芸員が求められる知識は非常に幅広いので、これまで勉強したことはどんなことでも役に立ちます。ですので、学生時代には自分の興味のある分野以外にも、もっといろいろなことに目を向けていればよかったと感じます。

学芸員課程に進んで、大学以外の事ではどのような活動をされましたか。いわゆるガクチカと呼ばれるようなものは学芸員になるには必要ですか。

私には学芸員に直接繋がるようなガクチカエピソードはありません。しかし、部活動で一生懸命取り組んだことなど、一般の就活で話すようなガクチカは面接でお話ししました。人となりを知ってもらうために、何か準備しておくといいと思います。学芸員をするうえで身につけていて役立ったスキルや、役立った大学での授業などはあるかお聞きしたいです。

論文執筆でもいえることですが、自分なりの文献史料の調べ方、メモの取り方等、情報収集の方法を確立しておくと思利だだと思います。今履修しておいてよかったと感じている授業は、くずし字について学んだ授業です。

2.博物館と大学の研究

数ある美術品のジャンルの中でも工芸に興味を持ったきっかけ

が知りたいです。

絵画も好きですが、工芸の意匠はよりデザイン化され、可愛らしくキャッチーなものが多いと思います。そういった所に惹かれたのかもしれませんが。また工芸品を鑑賞する上では、使用することと魅せることのバランス感覚（実用の美）が面白いポイントの一つだと思います。

学芸員の仕事と大学院での研究をどのように両立させていますか。またそれにあたり、難しいと感じることや心がけていることはありますか。

やはり時間のやりくりが大変です。休日や終業後の時間は限られているので、自分の体力と相談しながら修士論文の調査や執筆に充てています。学生時代よりも計画を立てて物事に取り組むようになりました。もちろん疲れていて思うように作業が進まないこともあります。

大学院での研究と、博物館での研究の比率はどのようなものですか。

館では未だ自分の研究、というほどのことはできていませんが、業務時間に行う所蔵品の調査等を研究に含めるならば、現在の時間の使い方としては7：3（館：修論）位でしょうか。学芸員での仕事が研究に活かされたことや、大学での研究が学芸員の仕事に活かされたことがあれば教えてください。また大学での研究テーマと博物館での専門とのギャップについて、メリットとデメリットの両面から話を聞きたいです。

相互に活かされることばかりです。修士論文では近世絵画を扱っています。館では、工芸担当とはいえ絵画を扱う機会も多くあるため、修士論文執筆のための調査は直接的に役に立ちます。反対に館では近世史や美術工芸についての幅広い知識を求められます。これはメリットといえると思います。私は、事前に担当が工芸品であり、特に刀剣を扱うことを伝えられていたので、修士論文とのギャップがあることは覚悟して入職しました。デメリットを挙げるとすれば、同時期に全く違う分野である程度の専門性を求められるため、単純に大変である、ということがあると思います。しかし学芸員としてはどちらの分野の知識も必要であるため、いずれは学ばなければならないことです。

研究されてきた専門分野と配属された分野（刀剣）が異なることですが、刀剣には以前から興味がありましたか。それとも配属されてから勉強を始めましたか。

刀剣に関する専門的な知識はほとんど持ち合わせていませんでした。そのため就職が決まってから本を読んだり博物館に行ったりして、少しでも知識を得ようとしていました。しかし実際に本物を手に取って学ぶからか、入職後に得た知識の方が圧倒的に多く、身に付いていると感じます。

博物館では、大学のときの専門分野とは異なる専門分野が担当になることがあると聞きますが、人手不足で学芸員も多忙中、自分の専門でない分野に担当になったとき、どのようにその分野について勉強したのかを知りたいです。

当館は歴史分野3名、美術工芸分野2名の学芸員で構成されています。これだけの人数ですので、企画展や講座で専門外の分野を担当せざるを得ません。しかし研究は、対象とする狭い分野を極めるのみでは難しいと思いますので、様々な分野を学

ぶことは悪いことではないと思います。大変そうとを感じるかもしれませんが、それぞれに興味を持って調べていると案外面白いもので、比較して新しい知見が得られることもあります。博物館では自分の専門外の領域の担当をされているとのことですが、博物館での知識は大学院での研究に役に立っていますか。またどのように役立っていますか。

館での専門は工芸ではありますが、書画が専門の学芸員から学んだり、資料を見ることもできるため、これまでの短い期間でも絵画について学んだことは多かったと思います。博物館での調査・研究と大学の研究の内容や規模は大きく異なっていますか。

私は岡山大学の芸術学・美術史分野のことしかわかりませんが、大学での研究はほとんど自己の裁量で取り組み、自由度が高かったと思います。ですが学芸員としての研究は、館の目的に合っているか、地域に還元できるか、等を考えなければなりません。窮屈だと思われるかもしれませんが、研究テーマを考える上で一つ明確な指標が与えられるので、やりやすくなる部分もあると思います。

学芸員となってから人文系の職員から自然系の職員へと、またはその逆になった職員は存在しますか。

先輩学芸員にも聞きましたが、まずないだろうとのことでした。ただ配置換えとして、博物館の職員が普及係として動物園に行く、というようなケースはあり得るはないそうです。

3.学芸員の仕事

学芸員として何人の方が働いていますか。

館長も含め5名の学芸員が在籍しています。

博物館では週何日、何時間働いていますか。

週5日、勤務時間は9時から17時30分です。

普段の業務の中で、最も比重を占める業務が何なのかを知りたいです。

時期によってかなり異なりますが、担当の企画展が近ければその準備が中心になると思います。私は初めての企画展が冬で、まだ余裕があるため、現在は染織や刀剣についての調査に時間を使っています。企画展や講座の準備、問い合わせへの対応等は調査の上に成り立つので、事務作業を除けば調査を行っている時間が最も多いと思います。

お気に入りの思い入れのある博物館資料を教えてください。

「太刀 銘 祐光」は初めて見た時に優美な姿や地鉄に目を奪われました。蜂須賀家旧蔵品で、当館の刀剣資料きっての名品ですので、今後の展示で自分なりに活かしていきたいと思っています。

工芸を担当する上で資料の扱い方など、特に気を付けていることを聞きたいです。

工芸品は素材が多岐にわたるため、その資料に合った扱いを常に考えるよう心掛けています。

刀剣を担当されているとのことですが、刀剣の展示や保存で大変だと思う点がありますか。よく刀剣の展示を見に行くので気になります。

刀剣は特に定期的な手入れが必要な点、刀身の扱いには特に注意が必要な点が難しいと思います。本当に些細なことで錆び

たり傷が入ったりするため、扱うときは細心の注意を払っています。ただ個人的には、そういった手間のかかる所も魅力の一つだと思っています。

博物館の展示物や遺物を展示する際に、誤って落としたりして破損させてしまった場合はどう対処しますか。

まずそういったことは起こってはならないので、絶対にないように扱います。もともと損傷が激しく扱いが難しい場合も現状維持に努めます。

学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる、と博物館法の第四条にあるのですが、この中で一番勤務時間で作業している内容はどれですか。その内容について具体的には何をしていますか。

挙げていただいた中では、私は調査（調べ物）に最も時間を費やしています。収集、保管、展示、研究だけでなく、寄贈資料の受理、外部からの問い合わせへの返答等には確かな知識の蓄積が不可欠です。

博物館での資料に関する調査研究は博物館が行う事業であるとされていますが、徳島城博物館ではどのような調査研究が行われていますか。

外部機関とも協力しつつ、現在は主に藩撰地誌「阿波志」の訓読・内容精査が継続して行われています。過去には城下町絵図の作成等が行われました。もちろん学芸員が個人的に行う研究もあり、その多くは企画展や講演に結実しています。

学芸員の仕事で研究に使う時間とその他の業務に使う時間の配分について教えてください。

厳密に記録を取っているわけではないので私の主観ですが、2：8（調査研究：その他）位かと思います。電話対応や事務作業等、調査研究の他にも様々な業務があり、現在は新しい業務を覚えることも多いため、調査研究に割ける時間は少なくなっています。

徳島城博物館で工芸品を子供にも分かりやすく解説するために工夫されていることがあれば知りたいです。

出来るだけ身近に感じてもらえるよう工夫します。特に工芸品では実用の美を感じて欲しいので、実際に使うことを想像してもらえよう説明を心掛けています。

教育普及活動の一環でワークショップなどを考えることもあると思いますが、企画を考えるのに行き詰った時などに参考になっている物や博物館などはありますか。

今のところ私が一から企画したイベントはありませんが、当館では他館や大学が行っているイベントからヒントを得ていることもあるようです。

徳島城博物館の職場で上司の方に真っ先に覚えておく・慣れておくように言われたことはありますか。

配属初日に「徳島城博物館の魅力を考え、教えてほしい」と言われました。もちろん私が館の強みを理解することが目的だとは思いますが、さらに外部から来た者の新鮮な意見を求められました。

学芸員の仕事中に起こった印象に残っているエピソードを教えてください。

たくさんの方から「早く刀剣を展示して」と言われたことが